

これまでの保護者および地域説明会で寄せられた主な意見等に対する区の考え方

I 小中一貫教育等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
1	○なぜ区は小中一貫教育の取組を進めているのか。	○区教育委員会では、「練馬区教育・子育て大綱」において「夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成」を目標として掲げています。小中一貫教育はこの目標を実現するための施策の一つであり、小学校6年間、中学校3年間を合わせた9年間を通して、全ての小・中学校で、中学校区を基盤として①授業改善による学力・体力の向上、②連携指導による豊かな人間性・社会性の育成、③滑らかな接続による安定した学校生活の確保をねらいとしています。
2	○なぜ施設一体型小中一貫教育校にする必要があるのか。	○旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校の3校は平成23年度から小中一貫教育に取り組んでおり、地域特性を生かした3大学との連携についても進めています。これまで3校が取り組んできた実績を踏まえ、新たな施設一体型小中一貫教育校を設置することで、より高い教育効果を発揮できるものと考えています。
3	○小中一貫教育校となる場合、通常の小学校の教育プログラムを終了した児童が編入することは可能か。	○小中一貫教育校も中学校選択制度の対象としており、他の小学校から小中一貫教育校（中学部）へ入学したり、小中一貫教育校（小学部）から他の中学校へ進学したりすることも可能です。 ○また、小中一貫教育校であっても、授業の先取り等を行わず、学習指導要領に基づいて学習指導を行っているため、他の小学校からの入学や他の中学校への進学に対しても支障がないよう対応しています。

4	○施設一体型小中一貫教育校のメリット・デメリットはなにか。	○施設一体型小中一貫教育校では、同一施設内である利点を生かし、「教員間の連携強化」「異学年交流の活性化」「同一施設内での円滑な移行」等により、教育効果が高まることが期待できます。 ○一方、9年間を一貫した学校に在籍するため、人間関係が固定化されやすいことや、他の小中学校のように児童・生徒が区切りを意識して新たな学校生活をスタートさせることが難しいなどのデメリットもあります。こうしたデメリットについては、様々な異学年交流の実施や学年段階の区切りを設けること等により、解消できるよう学校で対応しています。 また、クラブ活動や移動教室等の様々な機会を捉えて6年生がリーダーシップを発揮できる場を創出するなど、学年の枠にとらわれない弾力的な教育活動と小学校・中学校の区切りを意識したメリハリのある教育活動の両立ができるよう取り組んでいます。
5	○小中一貫教育校のデメリットを教えてください。	○人間関係の固定化、小中の区切りのつけ方が難しいといったことが考えられます。 ○大泉桜学園では6年生がリーダーシップを発揮できるような教育活動を行う等、工夫をしています。
6	○小中一貫教育校になることでトラブルに巻き込まれる年齢が低年齢化することはないのか。	○東京都で小中一貫教育校が他にもありますが、そういった事例の報告はありません。 ○小中の発達段階の違いは当然ありますが、校庭を分けるなど安全面の配慮は行います。 ○中学生は小学生の面倒をみたり、小学生は中学生を目標としたりするなどの傾向は見られます。教職員もトラブルがないよう配慮していきます。

7	○魅力的な小中一貫教育校とするためには、ハード面だけでなくソフト面も充実させていく必要がある。	○9年間の一貫した教育活動を活発に展開することができる施設一体型の利点を生かし、小中学校教員が一体となって学力・体力・豊かな心が調和した学びの充実を図っていきたいと考えています。 ○また、準備期間中においても、引き続き、新校の開校を見据え、小中一貫教育の取組、教育内容の充実を図るとともに、保護者および地域の皆様からご意見を聞きながら旭丘・小竹地域の特性を生かした魅力ある学校づくりを進めていきます。
8	○区内における施設一体型小中一貫教育校の設置状況は。	○区内における施設一体型小中一貫教育校としては、平成23年4月に、大泉桜学園を開校しています。
9	○大泉桜学園にも特別支援学級はあるのか。小中一貫教育校になることにより、どのような効果があるのか。	○大泉桜学園には特別支援学級はありません。 ○現在、旭丘小学校の特別支援学級と旭丘中学校の特別支援学級では、定期的に合同学習を実施しています。施設一体型の小中一貫教育校になることで、より日常的な交流を充実させることができると考えています。
10	○大泉桜学園の小中一貫教育校の取組の効果について疑問である。	○大泉桜学園では、9年間を見通した学習指導によって、指導方法の工夫や改善が図れるようになっていくこと、小中合同行事や幅広い異学年交流が子どもたちの人間性や社会性の育成につながっていること、小中学校教員の協力体制によって学校生活に対する満足度が上がっていることなどが確認されています。 ○また、発達段階を踏まえ、1～4年生、5～7年生、8・9年生の三期に分けて学習指導や生活指導を行っています。こうした学年段階の区切りを設けることで、各期のリーダーとして4年生、7年生、9年生のリーダー性が育つとともに、小学生が中学生を身近に感じて手本としたり、小学生のよき先輩になろうという中学生の自覚が一層高まったりします。

II みらい青空学園の教育活動・学校運営等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
11	○新校の教職員の配置はどうなるのか。	○区では、施設一体型小中一貫教育校であっても、小学校・中学校それぞれの教職員の配置人数は変わりませんが、管理職については、校長1名・副校長3名の体制となります。 ○施設一体型の利点を生かし、小・中学校の職員室を一体化することで連携強化や移動の負担の軽減等を図るなど、校務の効率化に取り組んでいきます。
12	○一部教科担任制は、先生の負担が減るのでよいと思う。	○新校においては、施設一体型のメリットを生かし、小学校で一部教科担任制の導入について検証するなど、より効率的な指導体制を検討していきます。
13	○小竹小学校を卒業後にみらい青空学園の中学部に入学する場合、みらい青空学園の小学部から入学している児童と学習の進捗に差が出ないのか。	○小中一貫教育校の各学年で学習する内容は、他の区立小中学校で学習する内容と同様です。 ○そのため、みらい青空学園の小学部に入学しても小竹小学校に入学しても学習の進捗に差は生じません。
14	○みらい青空学園に新しい部活を作ってほしい。	○生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる部活動の設置を検討していきます。

III みらい青空学園の名称について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
15	○統一学園名が通称名ということが分かりづらく、旭丘小学校・旭丘中学校の校名が変わると思っていた。	○統一学園名は、小中一貫教育校としての一体感を醸成するためのチーム名としての名前（通称名）です。 ○新校開校後も旭丘小学校・旭丘中学校の名前は使用します。
16	○履歴書など公的な書類に記入する際は、みらい青空学園と旭丘小学校、旭丘中学校のどちらの名前を使うのか。	○公的な書類に記入する際は、条例の正式名称である旭丘小学校、旭丘中学校を使います。

17	○みらい青空学園が開校し、後から小竹小学校が統合された場合、小学校名はどうなるのか。	○過去の練馬区の統合の事例を踏まえると、旭丘小学校と小竹小学校の両校が廃止となり1つの小学校になります。 ○1つにまとまって新しい学校となった場合は、新しい小学校名を考える必要があると考えています。
18	○みらい青空学園とえこだ学園の得票差は僅差だった。2つの統一学園名で決戦投票をする意向はなかったのか。	○どの名称もそれぞれの思いがあるため、得票数が僅差になる可能性があることを認識のうえ、投票を実施しました。 ○多数決で決定するというルールをお知らせしたうえで投票を実施したことから、再投票などの選定方法を変更する考えはありません。
19	○旭丘学園が公募の段階で一番多かった名称にも関わらず、最終候補に残らなかったのか。また、みらい青空学園が最終候補になった経緯を公表してほしい。	○小中一貫教育校の名称が旭丘学園になった場合、小竹という名前が残らないことになります。 ○推進委員からも旭丘・小竹地域の子が通う学校として配慮が必要であると声をいただき、区は旭丘学園の案を候補から外しました。
20	○統一学園名がみらい青空学園に仮決定したのは唐突な感じがする。地域にしっかり説明してほしい。	○検討の中で、「みらい」という言葉を推す意見が多くあり、「えこだ未来学園」などが候補にあがりました。 ○その後の調査の結果、「みらい学園」という名称は、商標法に抵触する可能性が高いことが判明したため、「みらい」という言葉を残しました。 ○推進委員の発案により、「みらい」と「青空」を組み合わせた「みらい青空学園」を最終候補の1つとすることとなりました。 ○令和6年度に「練馬区立学校の管理運営に関する規則」の一部を改正し、統一学園名を「みらい青空学園」に正式に決定しました。

IV みらい青空学園の標準服・校章・学校行事等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
21	○小学生に標準服はなくても良いと思う。	○標準服については、標準服等検討部会を中心に、児童・生徒や保護者、教職員を対象にアンケートを行い、アンケート結果を参考に決定しました。 ○みらい青空学園の小学部は標準服を導入せず、これまでどおり私服としました。
22	○標準服の導入の可否についてアンケートをとる際は、標準服を導入することのメリット・デメリットを伝え、総合的に判断してほしい。	○いただいたご意見を踏まえ、アンケートには導入することのメリット・デメリットを記載しました。 ○アンケートの回答を踏まえ、標準服の導入の可否や導入する場合の仕様（学ラン・セーラータイプかブレザータイプか等）をPTA代表者、教職員で構成される校章・校歌検討部会で総合的に判断しました。 ○いただいたご意見を踏まえ、アンケートに「スクールセータータイプ」を選択肢に追加しました。
23	○小学生から中学生まで紺色のVネックセーター、白いポロシャツ、グレーのズボンまたは、スカートも標準服のアンケートを取る際の選択肢に追加してほしい。 また、標準服を導入したとしても、入学式や卒業式等の式典での着用を基本としても良いと思う。	○標準服等検討部会での検討をふまえ、小学部は標準服を導入せず、これまでどおり私服とし、中学部は従来型の標準服は導入せず、各家庭で着用基準に沿った服を購入することとしました。
24	○標準服は子どもが着たいと思うものがよい。ジェンダーレスの観点から男女ともスラックスを選択できるとよい。	○新校の標準服については、標準服等検討部会を中心に、児童・生徒や保護者、教職員を対象にアンケートを行い、アンケート結果を参考に決定しました。 ○男女問わずスラックスは着用可能としました。

25	○校歌はどうなるのか。	○新校の校歌については、校章・校歌検討部会を中心に検討しました。 ○児童・生徒や保護者、教職員、3大学（日大藝術学部、武蔵大、武蔵野音大）の方、地域の方を対象に校歌に入れたい言葉・フレーズを募集しました。寄せられた案の中から校章・校歌検討部会で選定し、制作者である八木澤氏と武田氏にお渡ししました。 ○お渡しした校歌に入れたい言葉・フレーズを参考に、八木澤氏と武田氏に校歌を制作してもらいました。
26	○校歌に入れたい言葉を応募できる対象者について教えてほしい。	○児童・生徒や保護者、教職員、3大学（日大藝術学部、武蔵大、武蔵野音大）の方、地域の方を対象に募集しました。
27	○小中一貫校となった場合、運動会や音楽会といった行事は小中合同で行われるのか。	○運動会や音楽会等の行事の実施方法については、小中一貫教育校の特色や各行事の目的を踏まえ、今後検討していきます。
28	○入学前にみらい青空学園と小竹小学校、どちらが良いか判断できる学校見学などのイベントがあると良い。	○現在、練馬区立小中学校においては、年間4回の土曜授業公開日を設定するとともに、学校行事や学校説明会等において学校の様子を知る機会を設けています。
29	○学校行事だけでなく、授業やクラブ活動、交流活動等においても、大学や地域の施設等と連携してほしい。	○他自治体の事例等も参考にしつつ、これまで3校が取り組んできた3大学（日大藝術学部、武蔵大、武蔵野音大）の学生による合唱指導やオペラ鑑賞会、留学生との交流といった大学連携等の活動をさらに充実させるなど、引き続き、保護者や地域等のご意見を聞きながら旭丘・小竹地域の特性を生かした魅力ある学校づくりを進めていきます。

IV みらい青空学園の施設整備等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
30	○みらい青空学園の施設について、特徴や工夫しているところがあれば教えてほしい。	○北棟と南棟を渡り廊下でつなぎ、一体的な校舎にしています。 ○体育館と校庭が2つずつあります。屋内プールは温水で、小学生から中学生まで使うことから発達段階に合わせて水深の深さを変えられる可動式です。 ○北棟の校舎は1つのフロアに小学生と中学生の教室を設置し、交流事業等を実施できるよう工夫しています。 ○旭丘小学校、旭丘中学校に設置していた特別支援学級を新校にも設置します。 ○複合施設として、学童クラブ・児童館・街かどケアカフェ等を設置します。
31	○校庭が2つできるとのことだが、学年ごとに使い分けるのか。	○南棟に近い第一校庭を主に中学生が使い、北棟に近い第二校庭を主に小学生が使うことを想定しています。 ○実際の使い方に関しては、学校と相談をしながら検討していきます。
32	○体育館や教室等には冷房を設置してほしい。	○体育館や教室等には、空調設備を設置する計画です。
33	○PTA室は設置されるのか。	○区では、学校施設の標準化の考え方にに基づき、今後改築する学校においてはPTA専用室を設けないこととしています。 ○PTA専用室を設置していない学校では、会議室等をPTAの活動場所として利用するなど、学校運営の中で柔軟に対応しています。
34	○渡り廊下を設置予定とあるが、エレベーターを設置するなど、上階への昇降が難しい児童・生徒に対するケアはあるか。	○北棟、南棟ともにエレベーターを設置するなど、渡り廊下を円滑に通行できるように配慮しています。

35	○旭丘小学校と旭丘中学校の特別支援学級についてどのように考えているのか。	○現在、旭丘小学校には知的障害学級と難聴学級（通級学級）があり、特別支援教室（通室）の拠点校となっています。また、旭丘中学校には、知的障害学級があります。 ○みらい青空学園には、これらの特別支援学級をすべて設置する考えです。
36	○災害が発生した場合、避難拠点として何人くらいの収容を想定しているのか。	○区では、目安として各避難拠点（学校）に 700 人分の備蓄物資を確保しています。新校については、現状の旭丘小学校と旭丘中学校を併せた 1,400 人程度の想定です。
37	○2校ともに防災拠点として施設機能を強化してほしい。また、感染症併発に備えて、感染症対策も充実してほしい。	○現在、旭丘中学校の体育館は2階にありますが、新校では第一・第二体育館ともに1階に設置し、防災備蓄倉庫を各体育館付近に設置するなど、避難拠点としての利便性がより高くなるよう整備します。 ○区では、感染症対策として、マスク、フェイスシールド、消毒液、非接触型体温計、避難者用屋内テント等の感染症対策物資を各避難拠点に備蓄しています。
38	○工事期間中に校庭や体育館等の施設利用に制限があるのであれば、指定校以外への転校（区外も含む）を簡単に認めるべきと考えるが、配慮してもらえるのか。	○指定校の変更については、申請理由が区の定める承認基準に合致しており、かつ、希望校に学区外から受け入れる人数の余裕があることが必要です。申請理由や希望を丁寧にお伺いし、個別に審査していきます。なお、区外への区域外就学については、他自治体での審査となりますので、希望する自治体にご相談ください。

39	○1 学年 2 クラス× 9 学年で 18 教室とのことだが、今後の児童・生徒数の動向は。	○普通教室は、向こう 5 年間の将来人口推計である東京都教育人口等推計等を踏まえ、小学校・中学校ともに各学年 2 クラスを想定して設計しています。 ○また、旭丘小学校・旭丘中学校の児童・生徒に加え、小竹地域から新校への小学校就学希望が一定程度あった場合も受入れ可能な規模に設定しています。
40	○開校後に人気が出て 2 クラス以上になった場合、対応できるのか。	○併せて、小学生と中学生の普通教室の面積を統一して、クラスの増減に柔軟に対応するとともに、少人数教室の転用等の教室の利用方法見直しにより、将来の児童・生徒数増に対応できる計画としています。
41	○通学路が狭いので、道路を拡張してほしい。工事期間中の子どもたちの交通事故も心配である。	○練馬区まちづくり条例に基づき、学校敷地に接する道路のうち、幅員が 6 メートル未満の道路については、道路中心線から 3 メートルの位置まで、学校敷地側にセットバックして拡幅します。
42	○学校周辺の通学路はガードレールなどがなく狭い。敷地をもっとセットバックして道路を広げられないか。	○なお、工事を実施している時間帯は、工事ゲートの前や交差点等に交通誘導員を配置し、生徒、児童および近隣住民の皆様の安全確保に努めています。 ○旭丘小学校と旭丘中学校の間にある区道は、廃道しない計画としています。児童・生徒の敷地の行き来については、校舎 2 階部分で接続する渡り廊下を利用します。
43	○小学校と中学校の間にある道路はなくなるのか。	
44	○旭丘中学校の東側の道路を拡幅することだったが、具体的な工事計画などはどのようなになったのか。 ○また、ガードレールの設置など、車のスピードを減速させるような工夫はあるのか。	○東側の道路は道路の中心から 3 m 程度に拡幅する予定です。今の道路幅が 3.7m 程度なので、拡幅後は 5 m 程度に広がります。 ○現在、新規の歩道の設置については、車いす利用者とのすれ違いを考慮し、2 m 程度を想定しています。そのため、ガードレールの設置は困難です。
45	○入出校管理は、ID カード等で行うなどセキュリティを強化してほしい。	○敷地内に防犯カメラを設置するほか、夜間は機械警備による管理を行います。また、校門に電気錠を設置します。

IV 複合施設等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
46	○複合施設はどういう施設で、学区外の方も集まる場なのか。	○地域包括支援センターや街かどケアカフェは主に地域の高齢者向け施設です。学校と高齢者施設とは分けて使うことになります。
47	○街かどケアカフェとは、具体的にどういう施設か	○高齢者をはじめとする地域の方が気軽に立ち寄り、介護予防について学んだり、健康について相談したりすることができる地域の拠点です。介護予防体操のほか、認知症カフェや薬の講座など、様々な事業を実施しています。
48	○複合施設、体育館やプール等の地域住民への貸出しを検討してほしい。	○複合施設は、各施設の対象者のみの利用を想定しています。 ○体育館の貸出しについては、今までどおり開放する予定です。 ○プールの貸出しについては、導線確保等の整備を行っていないことから、貸出しの予定はありません。
49	○学童クラブは栄町からの移転なのか、ねりっこクラブの新設なのか。	○新校に設置する学童クラブは、栄町児童館学童クラブを移転して、校内学童クラブ（または校内ねりっこ学童クラブ）として運営します。 ○ねりっこクラブについては、利用する児童の利便性等を考慮し、複合施設内の児童館と近接した場所への配置を計画しています。
50	○みらい青空学園のねりっこクラブの開始時期は、いつ頃か。	○令和8年4月を想定しています。

51	○他自治体の学童クラブのように、小学校6年生まで利用できるよう検討してほしい。	○高学年については、当面の間、児童館等の併設学童クラブ、ねりっこひろば、学校応援団ひろば等において受入し、異年齢の児童との交流を通じて、児童の健全な育成を推進することとしています。早期に全小学校で「ねりっこクラブ」を実施することで、学校施設内で高学年を含むすべての子どもたちの放課後の居場所を確保していきます。
52	○ねりっこクラブは工事のどの段階で完成し、利用できるようになるのか。	○新校舎内には、学童クラブ室、ひろば室を整備し、整備完了後、年度切り替えのタイミングを目途に、ねりっこクラブを実施する予定としています。
53	○工事期間の学童保育はどんな形態になるのか。現状の体制を含めて教えてほしい。	○現在、旭丘小学校に通学する児童が利用する学童クラブとしては、栄町児童館学童クラブを主にご案内しています。新校舎完成までは、引き続き児童館学童クラブをご利用ください。

V 就学の特例について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
54	○新校の小学校の通学区域外であっても、希望があれば就学できるように配慮してほしい。	○新校における小学校の通学区域は、当面、旭丘小学校の通学区域を基本としています。小竹地域からの希望者の受け入れについては、令和6年度入学者から、就学の特例を適用し、希望する1年生が入学できるようにしています。 【就学の特例について】 練馬区小中一貫教育推進方針（平成28年6月策定）では、施設一体型小中一貫教育校の場合、中学校の学区域内に居住する児童は、小学校入学時に希望があれば、原則として新校の小学校に入学できます。施設一体型小中一貫教育校である大泉桜学園においても就学の特例を適用しています。

55	○小竹小学校に現在通っている児童も希望すれば、みらい青空学園に入学することが可能なのか。また、小竹小学校に限らず違う通学区域の児童も希望すれば通えるのか。	○小竹小学校の通学区域にお住まいの5歳児(新小1)の保護者宛に教育委員会から9月頃に就学の特例のご案内を送付します。希望すれば、みらい青空学園に入学することができます。 ○小竹小学校の在校生は、途中からみらい青空学園に入学することはできません。 ○他の通学区域にお住まいのお子様は原則入学することができません。
56	○小竹小学校は、現段階で12学級以上確保されている。旭丘小学校の過小規模を解消するために、就学の特例を設けて小竹小学校の学級数が減るような対応をするのはいかがなものか。	○就学の特例は、中学校の通学区域にお住まいのお様が9年間を一貫した学校に在籍することができる小中一貫教育校の特例制度です。 ○就学の特例は小竹小学校の統合に関係なく、制度として小竹地域の保護者の方々にご案内しています。
57	○就学の特例の対象は小学校新1年生のみとのことだが、在校生が対象ではない理由を教えてください。	○小竹小学校の在校生に就学の特例を適用すると、在校生が新校に転校できるようになります。転校する子どもとしない子どもに分かれてしまい、クラスの人数が減っていく可能性があります。 ○そのため、個別の事情で配慮が必要な場合を除き、小竹小学校の在校生に就学の特例を設ける予定はありません。
58	○現在、上の子が小竹小学校に通っている。就学の特例を使って下の子が旭丘小学校を選んだ場合、上の子は旭丘小学校に転校することはできないのか。	○ご兄弟が他校へ入学する等、特別なご事情がある場合は、指定校を変更できる場合がありますので、学務課学事係にご相談ください。

59	○令和5年度から就学の特例を始めたとのことだが、どのくらいの方が就学の特例を利用したのか教えてほしい。	○10人に満たない程度です。
----	---	----------------

VI 小竹小学校の施設整備等について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
60	○小竹小学校にエアコンを導入してほしい。	○普通教室は既にエアコンを設置済みです。体育館については、令和6年度の夏休み期間中に工事を行っており、2学期から使用しています。
61	○小竹小学校も他校と同様に6年の夏には空調が使えるよう必要な施設整備を行ってほしい。	○体育館の空調設備の設置には一定程度の期間を要するため夏休み期間中に工事を行いました。2学期から使用しています。
62	○小竹小学校の校舎を建て替えてほしい。	○小竹小学校は、旭丘小学校・旭丘中学校と統合する方針を持っているため、建て替えの予定はありません。なお、必要な修繕は随時行います。
63	○小竹小学校の校舎の安全性はどうなのか。	○小竹小学校の施設状況については、平成21年度に耐震改修工事が完了しています。その後も、日常点検のほか、定期点検や法定点検を行い、適切な維持管理を行っています。 ○また、コンクリート強度や躯体の損傷具合を調べるなど、長寿命化の適否に関する調査は行っています。引き続き他校と同様に、施設状況を適切に把握したうえで必要な改修等を行うことで、児童の安全を確保していきます。
64	○小竹小学校が存続している間は、小竹小学校に通う子どもたちの環境（ハード面、ソフト面）についても整備してほしい。	○小竹小学校の教育環境および安全面等において必要な修繕は、今後も実施していきます。 ○引き続き学校教育の充実を図り、児童に良好な教育環境を提供していきます。

65	○小竹小の校舎は平成 21 年に耐震改修工事が終了しているとのことだが、この躯体はあと何年ぐらい使える設計なのか。	○耐震に対する基準値（I s 値）は基準を満たしていますので、安心して使っていただけます。 ○日常的な点検、定期点検、法定点検等、適切な維持管理を行っており、これまでも必要な工事は順次行っています。今後も適切に進めていきます。
----	---	--

VI 小竹小学校の学童クラブの設置について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
66	○小竹小学校に学童クラブを設置してほしい。	○校内学童クラブの設置については、小竹小学校の今後の方針に合わせて結論を出す予定です。
67	○小竹小学校の学童クラブもしくは子どもの居場所作りに早急に取り組んでほしい。	○小竹小学校の校内学童クラブの設置については、小竹小学校の今後の方針に合わせて結論を出す予定です。 ○子どもの居場所としては、当面の間、学校応援団で運営するひろば事業や児童館、民間学童クラブ等をご利用ください。
68	○新校の開設と同時に小竹小学校に学童クラブの設置を強く希望する。	○栄町児童館の移転後は、小竹小学校に最も近い学童クラブは新校内の学童クラブになります。区立学童クラブは学校により入会できる学童クラブの制限は設けておりませんので、小竹小学校に通う児童も新校内や他の近隣学童クラブへの申請が可能です。 ○新校内学童クラブは、他校の児童が利用する場合の利便性等を考慮し、複合施設内の児童館と近接した場所への配置を計画しています。

VII 小竹小学校の統合について

No.	主な意見	意見に対する区の考え
69	○小竹小学校の在校生が新校に移らず、そのまま小竹小学校で卒業できるようにしてほしい。	○小竹小学校に在校している、あるいは今後入学するお子様が確実に小竹小学校を卒業できると約束することはできません。

70	○統合後、みらい青空学園に通う場合、通学距離が1.5km程度になる。安全な通学路を確保してほしい。	○スクールゾーンや防犯カメラの設置箇所等の見直しについて検討し、通学路の安全・安心に配慮していきます。
71	○小竹小学校の具体的な統合時期を明示してほしい。	○統合時期は未定です。令和8年度の新校開校後の状況を確認し、統合に向けた調整を進めます。 ○統合を行う際は、最低でも2年程度の準備期間を設けます。
72	○今後の統合方針等に関する内容について把握したい。広く周知してほしい。	○令和6年3月に第二次適正配置基本方針を策定しました。掲載場所は下記のとおりです。 練馬区ホームページ > 子育て・教育 > 教育 > 学校教育・施設 > 区立学校の適正配置の推進 > 区立学校の適正配置の方針 > 第二次区立小・中学校および区立幼稚園の適正配置基本方針  ▲第二次適正配置基本方針（区 HP）
73	○小竹小学校の統合時期は、具体的にどういう状況になったら統合の決定を判断するのか。判断基準となる学級数があるなら教えてほしい。	○旭丘・小竹地域の児童・生徒全体の人数を見て統合の判断を考えていきます。そのため、小竹小学校の学級数だけで決定するものではありません。
74	○新校が開校する令和8年時点では小竹小学校は統合されないとのことだが、統合の見通しはいつ頃出るのか。	○令和8年度の新校開校後の状況を確認し、統合に向けた調整を進めます。 ○統合を行う場合は、これまでの例でいえば最低でも2年程度の準備期間を設け、保護者や地域の方との話し合いなどを行っていくことになります。

75	○小竹小学校の統合に反対する。 小竹小学校を残したうえでみらい青空学園を良い学校にしてほしい。	○小竹小学校については、現状は適正規模となっていますが、旭丘小学校・旭丘中学校については今後も適正規模の確保は困難な見込みです。 ○また、区全体の人口推計では、今後、年少人口は減少傾向となる見込みであり、3校を再編し新たな小中一貫教育校を設置するという基本的な考え方については変更ありません。
76	○小竹小学校をなくさないでほしい。	○統合を決定する際は、区全体の児童数の減少だけでなく、個別の地域やその他の要素も含めて検討しなければならないと考えています。
77	○適正規模・適正配置のためだけに小竹小学校を統合しないほしい。	
78	○小竹小学校の跡地は柔軟に活用できる区立施設として残してほしい。	○学校の跡施設等の活用にあたっては、学校が避難拠点や校庭開放、学校利用団体によるスポーツなど、教育目的以外の様々な利用があることなどを考慮し、地域の皆様のご意見を聞きながら検討していきます。
79	○統合をするにあたって、心のケアに携わるスタッフの配置が必要なほど子どもが追い込まれるものなら、小竹小学校の統合は、子どものためを思ってやっていないと思う。	○お子様の環境の変化に丁寧に対応することが必要だと考えています。

80	○光が丘第一小学校と光が丘第二小学校が統合して四季の香小学校になったと聞いた。統合する際、児童の意見は聞いたのか。聞いたのであれば、公表してほしい。	○学校統合のアンケート調査結果を公表しています。掲載場所は、下記のとおりです。 練馬区ホームページ > 子育て・教育 > 教育 > 学校教育・施設 > 区立学校の適正配置の推進 > これまでの適正配置の取組 > 光が丘地区の小学校の適正配置  ▲学校統合のアンケート調査結果等（区 HP）
81	○小竹小学校を統合するなら、なぜ新校舎は小竹小学校の児童が全員入れるだけのキャパシティを確保していないのか。	○3校統合の方針がある中で、先行して2校の設置を進めています。そのため、旭丘小学校・旭丘中学校の児童・生徒に加え、小竹地域から新校への小学校就学希望が一定程度あった場合も受入れ可能な規模に設定しています。 ○普通教室は、向こう5年間の将来人口推計である東京都教育人口等推計等を踏まえ、小学校・中学校ともに各学年2クラスを想定して設計しています。 ○併せて、小学生と中学生の普通教室の面積を統一して、クラスの増減に柔軟に対応するとともに、少人数教室の転用等の教室の利用方法見直しにより、将来の児童・生徒数増に対応できる計画としています。
82	○小竹小学校の今後の対応はどうなるのか。	○新たな小中一貫教育校の設置については、児童生徒数・学級数の現況および将来推計を踏まえ、旭丘小学校と旭丘中学校を先行して、準備を開始することとしています。 ○小竹小学校については、令和8年度の新校開校後の状況を確認し、統合に向けた調整を進めます。

83	○小竹小学校は適正規模であるのに、なぜ統合の対象なのか。	○小竹小学校については、現状は適正規模となっておりますが、旭丘小学校・旭丘中学校については今後も適正規模の確保は困難な見込みです。区は、適正規模の確保について学校単体ではなく、広く地域の課題として考えています。 ○また、区全体の人口推計では、今後、年少人口は減少傾向となる見込みであり、3校を再編し新たな小中一貫教育校を設置するという基本的な考え方については変更しておりません。
84	○統合の最終決定は誰がどのような形で行うのか。	○学校は区の条例をもって設置しています。学校設置者である教育委員会が最初に判断し、区長を通じて区議会に提案します。条例の可決を受けて決定となります。
85	○小竹小学校に入学した場合、途中で小中一貫教育校に移動しなければいけないのか。また、小竹小学校に残り下の学年が入ってこないというような場合はどのような対応を考えているのか。	○統合する場合は、最低でも準備期間として2年は必要と考えています。光が丘第四中学校のケースでは、在校生が卒業してから廃校となりました。 ○小学校は6年と期間が長くなります。統合する際には、事前に両校の児童の交流事業を行ったり、児童の悩みを聞けるスタッフの配置を行ったりするなどの工夫が必要と考えています。 ○何年度から始めるということや交流期間を何年間確保するなどは、議論が必要と考えています。

VIII その他

No.	主な意見	意見に対する区の考え
86	○みらい青空学園の小学校と中学校それぞれにPTAが組織されるのか。	○みらい青空学園のPTAの設置や運営については、学校と保護者で検討していただく内容になります。
87	○つくば市は、小中一貫教育校の教育効果についてデメリットが大きいことから小中一貫教育校の設置をやめたと聞いている。	○つくば市の見解は、学校が次々に大規模化していく中で小中一貫教育校の設置は難しいというもので、教育的な課題のみを理由に小中一貫教育校を設置しないというものではありません。

88	○新しい取り組みである Zoom 配信のおかげで説明会に参加しやすくなったのは良かったと思う。	○今後も、より良い情報提供に努めていきます。
89	○インターネットで区に意見を送る際に、入力者の所属や住んでいる地区については任意記入にしてほしい。	○いただいたご意見は、今後の運営方法の参考にさせていただきます。
90	○区ＨＰに掲載しているこれまでの検討経過である報告書に、検討状況や決定までの過程をもっと詳細に書いてほしい。	
91	○練馬区全体として、小規模校を統合して規模を大きくする計画は今後も続いていくのか。	○区としては、急速な少子化を踏まえた今後の児童・生徒数の動向や施設の改築時期、35 人学級編制の実施などの要素を鑑みた検討が必要と考えています。 ○令和 5 年 12 月に「第二次適正配置基本方針」の素案を公表し、区民の方々からご意見をいただいたところです。区は新たな方針に沿って、適正規模・適正配置を進めていきます。
92	○令和 6 年度策定予定の実施計画は、練馬区全体の学校を精査し、統合する必要がある学校については、検討を進めていくのか。	○令和 6 年 12 月に公表した実施計画（素案）では、練馬区全体において、20 年後の推計による過小規模校・過大規模校、改築に課題のある学校を候補校とし、さらに 4 つの視点で絞り込み対象校を選定しています。
93	○旭丘小学校の学級数が今後も適正規模に満たない場合、引き続き過小規模になると思うが、小中一貫教育校にすることで対象校から外れるのか。	○小中一貫教育校についても 18～27 学級を適正規模と定めています。

94	○小規模校にはその良さが あり、魅力を感じている 方々もいる。適正化を図れ ば良いという訳ではない。	○国は学校教育法施行規則において、学級数の標準規模を12～18学級と定めています。教育委員会では、小学校では全学年でクラス替えを可能とし、同学年に複数の教員を配置できること、中学校では生徒同士の交流や学習面、部活動の充実を図るため、新たな方針においても、いずれも12～18学級を適正規模としました。児童・生徒数の減少が予測される中、子どもたちが良好な教育環境の中で学び成長することができるよう適正配置を進めることとしています。 ○一方、算数・数学、英語など教科の特性によって、少人数で行った方が効果的な教科については多くの区立小中学校で少人数教育を実施しており、これからも充実していきます。
95	○小竹小学校のために個別 の説明会を開催していた だき、ありがとうございました。	○今後も定期的に説明会を開催するなど、児童・生徒や保護者、地域の皆様に対し、引き続き丁寧に情報提供を行っていきます。
96	○新校の検討状況等につい てホームページ等で情報 発信を行ってほしい。	○説明会で使用した資料やいただいた主なご意見および区の考え、また、保護者および地域の代表等で構成する小中一貫教育校推進委員会の主な内容等について区ホームページに掲載しております。 練馬区ホームページ > 子育て・教育 > 教育 > 学校教育・施設 > 小中一貫教育の推進 > 施設一体型小中一貫教育校 > みらい青空学園（旭丘・小竹地域） 